

ごあいさつ

春暖の候、皆様におかれましては、御健勝でお過ごしのことと存じます。日頃から議員活動にご指導、ご理解を賜り感謝申し上げます。

1月1日に発生した能登半島地震から3か月が経ちました。被災者避難生活が長期化する中、皆様が一日も早く日常を取り戻せるよう、復旧・復興に向けて、月日の経過とともに見えてくる課題に応じて支援を続ける先の長い対応が求められています。

さて令和5年度3月定例月議会は3月1日から22日間の会議期間で上程各案件の審議にあたり議事終了3月22日閉会いたしました。

本市被災した道路や上下水道施設、小中学校などの復旧や市有がけ地の安全対策工事を前倒しするなど順次取り組む。また地震により消費が冷え込んでいる地域経済対応のため金沢の買い物応援商品券に対して、プレミアム率を上乗せし、商店街や飲食店などを支援します。

私たちは被災地であり能登半島被災者を支援する石川の県都金沢市民として、様々な支援の姿があるなかで、自分ができる範囲での支援を継続していくことが大切でないかと考えます。

令和6年度当初予算

予算の規模

一般会計	1,904億円
特別会計	960億3,304万円
企業会計	565億6,550万円
全会計	3,429億9,854万円

令和6年度当初予算は本市文化の強みや若者・民間の視点・活力の活用、デジタル化の推進など、都市像に掲げる共通視点を盛り込みながら、「心豊かで活力ある未来の金沢に向けて踏み出す 共創推進予算」としています。

金沢市の新たな都市像

未来をひらく世界の共創文化都市・金沢
～すべての人々と共に、心豊かで活力ある未来を創る～

- 基本方針1 世界に誇る伝統と創造の文化が息づくまち ～魅力づくり～
- 基本方針2 多様な人々が共生し、心豊かに暮らせるまち ～暮らしづくり～
- 基本方針3 共に学び、未来を創る人を育むまち ～人づくり～
- 基本方針4 創造・変革により成長するまち ～仕事づくり～
- 基本方針5 活力と個性があふれ、安全で持続可能なまち ～都市づくり～

共創推進計画は令和6年度から令和15年度の10年後を目標に5つの基本方針に基づく施策を取り組み始めることとなります。震災からの復旧・復興とともに、未来の金沢を見据えるために新年度がスタートします。



2月1日 「令和6年能登半島地震に関する緊急要望」 自民党金沢市議員会

村山市長に金沢市の復旧復興支援について、金沢市経済活性化対策について2次避難の方々の対応についての要望もいたしております。



2月5日～6日 都市間交流推進事業・高松市訪問団

団長：福田議会運営委員会委員長 団員9名 うみまち商店街視察

令和6年1月～3月 議員活動報告



2月28日 令和5年度第2回意見交換会 (金沢市教育プラザ富樫)

地域の担い手とスポーツ・文化をテーマのテーブルトーク方式で開催



3月12日 議会基本条例検証特別委員会議長報告

稲端副委員長と高議長に報告書を提出

能登半島地震支援活動より



1月13日

▲山形県小国町渡邊重信町議会議員(写真右)は、支援物資(高齢者の下着等)お届けのため、前日夜間に車を走らせ、早朝金沢に到着。宮本参議院議員自民党地震被害対策本部長とは商工会活動での旧知の仲。多忙の中短い面談もでき、物資は羽咋市の福祉事業所に届け、そこから輪島市穴水町等に配布運搬をする手配をいたしました。



2月1日



あつまらんげ〜のど!
1月29日~3月31日
金沢市福祉用具プラザ内にて

▲金沢市に避難する方々にご寄付の生活物資等の配布と福祉カフェでのコーヒーを無料提供。ボランティアの方々が届いた物資を運搬し並べ、訪れる避難者の対応等行っています。

◀和倉温泉「加賀屋」から車いす支援を頂きました。私が2次避難者の車いす要望のお声をLINEグループのひとつに発信しました。メンバーのおひとり、加賀屋女将長谷川さんから「車いすありますよ。必要な方に利用してください」と返信あり、即刻の提供を受け10台の車いすを役所にお届けいただきました。スピーディーな対応に感謝いっぱいです。村山市長からは、大きな被災を受けた和倉温泉の復興協力と提供の車いす活用等謝辞の席に同席しました。

復興に向けて能登半島の地域福祉を取り戻す 社会福祉法人弘和会理事長 畝 和弘氏とのオンラインにて対話



2月2日
全焼した施設現場にて
(畝理事長写真提供)

畝和弘氏は輪島市、羽咋市にて24年間介護事業、障害者就労支援事業や児童の放課後サービス等地域密着の福祉事業を展開してきた。地震で輪島市内施設倒壊と火事にて施設全焼(写真)したが、発災直後から損壊の少ない1施設と準半壊の1施設で可能な限り利用者と近隣から避難してきた方々の避難所対応にあたってきていた。高齢者や障害を持った方々や要介護者などは災害弱者と言われるように、避難所生活は環境の大きな変化を強いられ心身への負担、ストレスから震災関連死の危険にさらされている現状がある。要介護者が安心して生活できる環境整備のために「能登半島の地域福祉を取り戻す」復興に向けてのクラウドファンディングを開始し2月末終了、支援総額3,125,000円。現在の畝理事長は一日でも早く輪島の事業所の再開を目指しているという。他市での長引く2次避難所生活や県外避難先から能登での元の生活を取り戻したいし、利用者が安心して暮らせるよう迎えたいと語る。そのために仮設の事業所の設立を目指して新たなクラウドファンディング「福祉仮設住宅の建設」の準備を進めている。地域における持続的支援を提供し支援を必要とする方々の暮らしとコミュニティを守りたい、それには早急なる仮設事業所(福祉仮設住宅)の建設が必要であるとプロジェクト立ち上げのきっかけを伺った。福祉仮設住宅は災害救助法で定められた仮設住宅の一種です。災害時には一般の仮設住宅と同様に福祉仮設住宅の計画建設を一体的に進めることが重要だと私も思っています。この対話を通してクラウドファンディングで取り組むことに皆様のご理解ご支援を頂けると幸いです。



医療と福祉と地域をつなぐ

久保洋子 議員事務所
〒920-0014 金沢市諸江町36-17
TEL.076-264-3536
FAX.076-264-3536
URL.https://kubo-yoko.com/

クラウドファンディング▶

